出句用紙（番号　1　）

作者名

○○	奈良町の茶粥満席冬日向		○○	山の辺の柿熟れしまま落ちしまま
	いつの間の脛の傷やら神の留守			
○○○○	刻々と沼にのまるる破蓮			
○○	朝霜のひかり畑にも荒地にも			

南柯句会

出句用紙

（番号　2　）

作者名：（安藤）　英彦

◎○				兼題句
我が物とそらみつ大和　通草（あけび）もぐ	泣き言は愚にもつかぬと秋の空	粧（よそほ）ひは赤子の歩み山下（くだ）る	誰（た）がために月下美人の一夜花	無きものと株を残せば霜被（しもかぼ）き

点数
4 3 2
天 地 人

ひこう　特選句
並選句　一つ

南柯句会

出句用紙（番号 3）

作者名 へちま

○	◎○	○○		○○
山の辺は稔りの秋ぞ三万歩	神鶏の声に出発木句の秋	通草掘ぎ 自然の甘さ分かち合う	めくるめく紅葉次々いろは坂	初霜の溶けて涙の石地蔵

南柯句会

出句用紙（番号 4 ）

作者名 一止文蔵

霜降らす青女に傅(かしず)く土の兵

織月の凪(なぎ)の舟屋に銀の刺し網

夜の鹿鳴いて鳴かれて山の音

打つ秋や水没ボール鰐の寝る

スーパーの桶の秋刀魚や目に涙

南柯句会

出句用紙（番号 5）

作者名 太陽

	○	○		
天高く大福餅の伸びも良し	朝霜の白銀残月の気品	透けてゆく名月と日の別れかな	秋の雲ふけうを山に残し去る	冬星や銭湯までの鐘の音

南柯句会

出句用紙（番号 6）

作者名 平華

	◎○	○○		○
古いの世辞を真に受く秋の夜半	秋遊びじいは俺べない走れない	投了となりてため息いわし雲	恋猫の狭き路地やく秋時雨	表札の墨枯れ文字や霜の朝

南柯句会

出句用紙（番号　7）

作者名　福田洸弥

湯を回しコーンクリームとろとろと

灯りだけ草木も眠る霜夜かな

ゆらゆら
藁塚や影長くして道の果て

前髪を気にする指先竹の春

秋うらら糸のほつれのそのままに

南柯句会

出句用紙（番号 8 ）

作者名 米田よし

○				
脚に付く盗人萩や恋心	新しの恋は秋霜見ないふり	返信に自覚せむこと檸檬の香	鹿鳴きし人はスマホを叩きけり	身請けかと夜寒の恋を抱えけり

南柯句会

出句用紙（番号 9）

作者名 鮫島しょうん

。	。	。	。	。
強霜や決心かたくして一歩	宰相は女といふ世穴惑ひ	秋深き路地に人気の占い師	天高し誰にも抜けぬ鉄の杭	朝刊をカサカサたたむ秋深し

南柯句会

出句用紙（番号 10）

作者名 白井桃紅

	○○		○○	
木通（あけび）の実はるか頭上に揺れてをり	立冬や黄熟香のがらんどう	山の辺をゆけば柿柿柿の迎へけり	現役の電話ボックス赤まんま	設置さる鍬の箱罠はだれ霜

南柯句会

出句用紙（番号　11　）

作者名　山崎　たか

○				○
出会う人　葱の束持つ　山辺道	冬の朝　生駒山へと　光矢飛ぶ	綿の花　今日も綿を　語りおり	無人店　個数まちまち　柿百円	田んぼへと　塔の形に　稲残り

南柯句会

出句用紙 (12)

作者名 藤ゑ工ゑく

				鶏よりも目を引く菊の衣裳かな
				日々進む短日に知る余生かな
				温暖化の懸念ひとまず豊の秋
				浄水の柄杓(ひしゃく)の乾く神奈月
○兼○				登校の列に消さるる路の霜

南柯句会

出句用紙（番号　13）

作者名　関　洋子

○	○	◎	○○○	
初霜を強く踏み込み振るバット	月冴ゆる螺鈿紫檀の五弦琵琶（らでんしたんごげんびわ）	妣（はは）の声留守電で聞く秋夜かな	君の声真空パックにした秋夜	秋澄むや試合終へ今日引退す

南柯句会

出句用紙（番号　14）

作者名　真一

○	○○			○
酔漢は同じはなしす霜の夜	点滴のしづく数へて霜夜更く	霜枯れの宮跡今日も人走る	トロントの熱戦外は冬隣	先行きの見えぬ株価や霧の朝

南柯句会

出句用紙（番号 15 ）

作者名 上田秋霜

	◎○	○○	○○	○○
濃淡も遅速もありぬ山紅葉	あんなにも目立つところに鵙の贅ノ	帰り花母が笑うてゐるやうな	初霜の朝も日課の三千歩ノ	手帳にも潜んでをりし秋思かな

南柯句会

出句用紙（番号 16）

作者名 ひろし

				○○
鮮やかな 深き山から雨相降りる	鰯雲 眼下の街の写しかな	国政や 奈良の女に長き夜	奈良の鹿 無き一角合わす哀れかな	秋麗(しゅうれい)や 一難去った我が心

南柯句会

17

出句用紙　　作者名　宮本こぼ

星月夜カフェの喧噪(けんそう)溢れをり

青が散る「正倉院展」瑠璃杯(るりのつき)

霜の夜の玉眼潤む無著像

まだ駆ける脚の構えに角切らる

秋刀魚焦がす卓袱台ありし頃の母

出句用紙　　作者名　安藤町彦

地　かくれんぼして黄落の色となる

一つ家に二つの余生冬隣

渋柿の渋抜けていく山河かな

終電に立方体の冬が来る

初霜や少年といふ未然形

19

出句用紙　　作者名　山本わこ

○手をつなぎ花いちもんめ芋の露

○朝の霜今日といふ日の一年生

○教会のパイプオルガン金木犀

○骨折の白き蘇生や芋の露

○○栗南瓜ガールズトークの破裂音

出句用紙　　作者名　富野香衣

NO 20

パーの指反り返り霜夜の仁王

淡海に今宵の月の活けらるる

恋文といふに拙く近松忌

タロットの復縁カード秋の夜

翁忌や句碑に雫の草書体

出句用紙（番号 21）

作者名 上窪泰千

☆

タワマンのスカイテラスの天高し

新米の価格表示を覗（のぞ）きけり

官邸の高市早苗 夜業かな

紅葉狩 クマ出没の憂（うれ）う道

霜晴の徐々に空を拡げけり

南柯句会

出句用紙（番号 22）

作者名 近藤和草

○○ ○○	◎ ◎○	○○		
秋風や十石舟の水脈豊か	横道に花街の名残り鉋木屋	秋深し紙垂の掛かりし能舞台	初霜やビオラの花は畳まれて	朝練の地窓に今日は霜の花

南柯句会

出句用紙（番号 23）

作者名 二冪

◎ 神鶏のまどろむ宮の黄菊かな

○ 傘の柄の届けと背伸び通草の実

秋天やさあ腹筋を鍛えよう

○◎ 御陵へ暮れゆく山路椋の実

初霜や地球の底は沸々と

南柯句会

出句用紙（番号 24）

作者名 花山

		○		
野ざらしの墓にさぶらう霜の夜	槙の実を噛んで大谷詣でかな	枯れ蓮の中を行く人帰り畳んでしまふ胸のうち	十二月波間にゆれし赤い旗	幼帝を抱く波間の十二月

南柯句会

出句用紙（番号 25 ）

作者名 横田清史

	冬めいて短き秋のもの悲し			
	冬耕の後ろに鳥り続き去り			
並 ○○○	部署代わり新古な同僚神の留守			
	冬霞原付バイク通る道			
「人」	霜の朝フロントガラスガラス			

南柯句会

出句用紙（番号 26）

作者名 しゃぼん

一		木一	一	
死に近き父に呼ばるる霜の朝	霜予報添い寝の父のつひの息	霜月や父の形見のルイヴィトン	督促状二通郵便受けの霜	狙撃手の目玉や霜月映画館

南柯句会